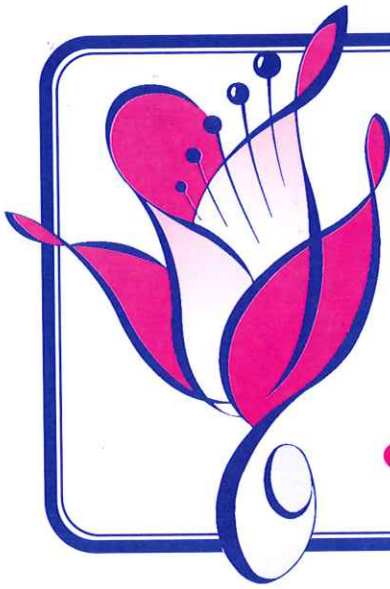


自分自身を愛するように隣人を愛しなさい。(レビ記 19-18)

人にしてもらいたいと思うことは何でも、あなたがたも人にしなさい。(マタイ 7-12)



ひびきあい Hibiki Ai

聖ヨハネ学園だより

発行：聖ヨハネ学園 〒569-1032 高槻市宮之川原2-9-1 TEL&FAX072-687-0548

聖ヨハネ学園施設長に就任して



聖ヨハネ学園
施設長
宮 脇 弘 次

昨年の4月に児童養護施設 聖ヨハネ学園の施設長に就任いたしました。児童養護施設には17年振りに戻ってきましたが、子ども、職員、制度等が変わっており、まさに浦島太郎状態でした。現在、社会的養護の在り方が問われ、施設の小規模化も加速し、まさに児童養護施設にとって、変革の時代を迎え、大変な時に就任したなあとプレッシャーを感じてはいます。しかし、様々な課題を抱えている子ども達の対応に日々追われ、悩んでいる余裕はありません。

児童養護施設の子ども達

の約60%が虐待を受け、約30%に知的障がい、発達障がいがあると言われ、益々個別対応も難しくなっております。職員も対応に苦慮しています。私が以前児童指導員として働いていた時代と比較すると、個室も増え、ハード面では充実し、学習塾の費用が措置費から支給され、金銭的にも恵まれている部分もあります。しかし、スマートフォンは、一般的に高校生の90%、中学生でも50%が所持していると言われていますが、携帯の利便性やSNSの危険性を考えると、施設として安易に持たせられないので、児童養護施設は20%程度の所持で子どものニーズには応えられていません。また、大学等の進学率は一般的には70%程度ですが、児童養護施設は20%で、80%は就

職し、自立を強いられることとなります。様々な理由で家族と離れて生活することを強いられ、やりたいこともできない、夢も持てない生活はあまりにも酷だと思えます。決して簡単ではないと思いますが、子ども達だけでなく、職員も夢を持てるような学園にできればと考えています。自分の意思で児童養護施設を選択している子どもはほとんどなく、やむを得ない状況で入所しています。しかし、子ども達が大人になった時に学園にいたから、今の自分があると思ってもらえるように職員一丸となり、子ども達と共に育んでいきたいと思っております。これからも温かいご支援を宜しくお願いいたします。



▼「日々の関わりから楽しいと思うこと」を現場のスタッフに聞いてみました。

聖ヨハネ学園

児童養護施設で働きはじめて3年目になりますが、この仕事で非常に重要だと感じるのは子どもたちとの関係作りです。方法は様々ですが、私にとって最も自然体で関われるのは、大好きなサッカーをしている時間です。グラウンドが狭い施設も多い中、ヨハネ学園のグラウンドは非常に広く、恵まれた環境だと思います。

初めの頃、子どもたちはさほどサッカーに執着心が無く、私から声を掛けて連れ出す事が多かったのですが、年々、子どもたちのサッカー熱が高まり、子どもたちが職員を引っ張っていくことが多くなりました。今年も、毎日夕食後30分間試合をすることが習慣づき、みるみるうちに成長し

ていきました。

毎年7月に小学生対象の大阪府児童養護施設対抗フットサル大会があり、そこで優勝すると近畿大会に繋がります。今年、ヨハネ学園は初めて大阪府大会で優勝し、近畿大会で12チーム中6位という好成績を収めることができました。今年の近畿大会は大阪府が主催であったため、日本代表選手がキャンピング地として使用する「Jグリーン堺」という所で試合をすることができました。大人も子どもも初めての



経験で、2日間興奮しっぱなしでした。サッカーに興味を持ってくれただけで幸せでしたが、子どもたちが懸命に頑張った結果がついてきて本当に嬉しかったです。

一番驚かされたのは、近畿大会4試合を終え、帰ってきただけなのに練習を始めていたことです。「今日は疲れたやろし、休もうや!」と一瞬思いましたが、それくらい楽しく、また悔しさも子どもたちの中に残ったんだろうなと感じました。子どもた



ちに最高の経験をさせてもらったので、来年以降も結果がついてくるよう私も更に頑張ろうと思えました。

(3年目 児童指導員)

下田部保育園

私は下田部保育園で働きはじめて9年目を迎えました。途中、産休、育休を経て、今年度より復職しています。

「家でも子育てして、仕事でも子どもをみるって大変でしょう。」なんて言われることもありますが、我が子だけでなく、たくさんの子どもの成長を見守ることのできる保育士という仕事は本当に楽しくやがいのある仕事だと感じています。

現場をしばらく離れていたことで復帰する際、不安もありましたが、保育士の立場としてだけでなく、子どもを保育園に預けている母親の立場としても、保護者の方と気持ちの共有ができるようにな



ったことは、自分の強みとなり保育士として成長できた点ではないかと感じています。今年度、私は0歳児の担任をしています。先日、こんなことがありました。子どもが二人、ひとつのおもちゃを取り合っていました。二人ともまだ喋ることは難しいものの、一所懸命に声を出して気持ちを表している姿を他の保育士とともに、どっちが強いのかな？なんて微笑ましく見守っていました。すると、別のお友達が二人に近づいていき、



二人が声をあげる度に、「うんうん」とうなずき、交互にお友達の顔をのぞきこみ、仲裁をしてくれているようでした。その姿に担任はみんなほっこりと笑顔がこぼれていました。まだまだ赤ちゃんだと思っていました。保育士の行動を真似てお友達のために行動することは保育園ならではの姿であり、0歳児の集団生活の中でも社会性が少しずつ芽生えているのだと感心しました。保育士として様々な責任が付きものではあります

が、子どもたちの可愛いなあと感じる場面を見つけ、保護者の方と共有し笑い合える。そんな毎日が本当に楽しいと感じています。

(9年目 保育士)

ミス・ブール 記念ホーム

私が日々の関わりの中で楽しく思うことは、ご利用者が笑顔で過ごされている時間です。

楽しそうに過ごされている時はもちろんですが、ご利用者が抱える課題を見つけ、それを解決できたと感じる時、楽しさと共にやりがいを感じます。

以前、入所されて間もないご利用者が慣れない環境への不安から、夜間に眠られず、日中に眠ってしまう日が続くということがあります。何か日中に楽しめるような物はないかと考え、試しに見本付きの塗り絵をお勧めすると、見本のように陰影をつけなが

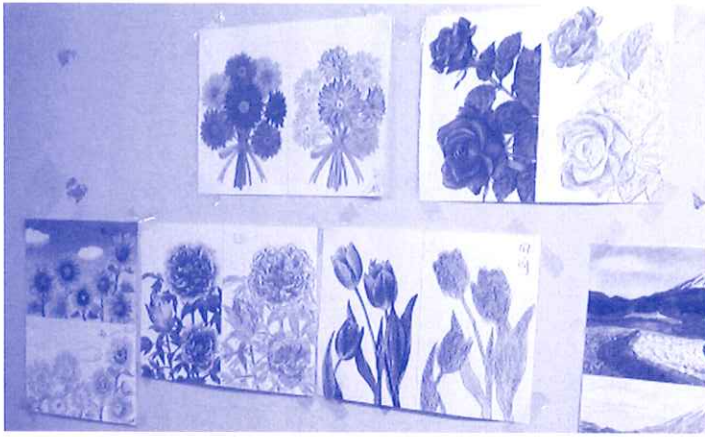
ら真剣に取り組んでくださいました。加えて、一緒に塗り絵をおすすめした他のご利用者とも話が弾むようになり、食事中にも楽しそうにお話されたり、一緒に歌を歌ったりされる姿も多くみられるようになってきたのです。その後は日中に眠られてしまうことはほとんどなく、今では夜間にしっかり眠られ、笑顔で過ごしていただいています。

また、あるご利用者は歩行が不安定ながらも、落ち着かず歩こうとされる状態が続いていました。食事中も座っていないられず、職員が見守りをして一瞬の隙をついて歩きだされ、バランスを崩して転倒されることもありました。そこで、まずはお話をしっかり聴いてみることから始めてみました。その方にどこへ行きたいのかを傾聴する中で、娘様や家のことを気にされていることが分かり、私たち介護者は、「娘様は大丈夫だと仰っていましたよ。」と少しでも安心できるように声かけを工夫し、徐々に食事にも集

中できるようになったのです。私は、ご利用者が抱える課題を解決したと感じるとき、ご利用者が穏やかに過ごされていると感じられるような笑顔が好きです。

楽しそうに生活されている姿を見ると、私も楽しくなります。今後もご利用者がその人らしく笑顔で暮らしていただけるように、少しでも力になっていきたいと思えます。

(3年目 介護職員)



ゆう・あい センター

ゆう・あいセンターのデイ教室は、18歳～64歳までの方を対象とした地域生活支援事業です。主に、レクリエーション活動を通じてご利用者支援を行っています。福祉的リハビリテーションの支援も行っています。福祉的リハビリテーションの対象となるご利用者は、いわゆる重症心身障がい者で、身体障がい者手帳1級または2級と、療育手帳Aを併せて所持している方です。しかし、対象となる方以外で、リハビリテーションを希望される方もおられます。特に事故や脳卒中による中途障がいの方は、医療的なりハビリテーションの継続が難しい場合も多く、福祉的リハビリテーションに対して強い希望を持っておられます。

私は理学療法士というリハビリテーションの専門職として、そうした対象となる方々以外のご利用者に対する支援

も行っています。

こちらの写真のご利用者は運動失調という症状により起き上がったたり、立ち上がったりの動作や立位・歩行に障がいがあります。ご自身で出来ることは困難なことであったも、「自分でしたい」という思いがあり、ご自身の生活をとても発展的に考え、目標を持って取り組んでおられます。リハビリテーションの内容についても、一緒に考えながら組み立てています。

リハビリテーションに取り組まれているご利用者は、ご自身の身体機能や身体構造を維持するために、運動療法をおこなう必要があります。時に痛みを伴うこともある関節可動域訓練や、運動負荷が

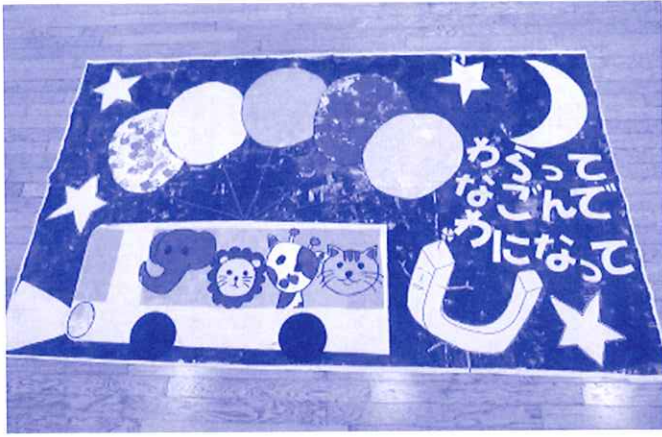


かる姿勢・動作訓練では限界に近いところまで頑張ることもありません。私はその限界を探りながら運動療法を支援するのですが、ご利用者がひたむきに頑張っておられる時には何とも言えない愛おしい気持ちになります。

(4年目 理学療法士)

うの花療育園

保育士からは、「コミュニケーションに課題がある子どもの思いを感じ取れた時」「大人を頼ってくれた時」「一緒にしよう」と伝えてきてくれた時」「子どもの遊びの世界に入れた時」「できることが増えたり、苦手なことに取り組む等、子どもの成長が見られた時」にやりがいを感じるという声が挙がりました。子どもと生活を共にする中で、丁寧な関わりから通じ合え、また、人を信じる力、人を頼る力“の育ちが見られることが、保育士の喜びに繋がって



いることがわかりました。臨床心理士・言語聴覚士からは、「子どもの課題にこれ策を練り、試してみても上手くできた時」「保護者に助言して、家でも上手くいった」と報告があった時」という意見を、多職種がチームを組み、療育支援と保護者支援を掲げている当園は、園や家庭生活で必要と考えられる子どもの発達・課題に合わせた目標や支援内容を吟味し、個別セッションを行なっています。保護者と共に悩み、考え、

一緒に子育てできることが、この仕事の醍醐味でもあります。

厨房・事務等、直接園児と関わる機会が少ない職員から、**「おかわりを持って行った時に、ありがと」と喜ばれた時**」「可愛い笑顔や声を聞いて、元気をもらえた時」との意見が挙がりました。

このアンケートをまとめる中で、どの職種も「子どもを思いやり、真摯に向き合い、寄り添い、共感する」ことを大切に、日々関わっていることがわかりました。

相談支援からは、「地域の方・成人期と関わる方々と触れ合えること」「他の事業所や行政とつながることができること」という意見が挙がり、地域課題と一緒に考えていく立場であることがわかります。今後、うの花療育園のモットーである「わらって、和んで、わになって」の3つの”わ”子ども・保護者・うの花が、手を取り合って笑い合える園を目指したいと思います。

地域生活支援 センター光

光では30歳から上は69歳と様々な年齢の方が入所されています。私達は、それぞれのご利用者に合わせた支援を行っています。一職員としてご利用者とのように関わることによって、その方の将来が変わっていくこともあります。決められた業務内容を単純にこなすのではなく、今、出来る事が今後でもできるように、もっと成長できるようにと、ご利用者に合わせた支援を試



行錯誤しながら続けていきます。スムーズに動作が出来るようになった姿やご利用者の笑顔を見ることが出来たとき、コミュニケーションの難しいご利用者と意思疎通が出来たとき：そんな毎日の積み重ねがやりがいとなり、嬉しさを感じるとともに大きな責任感を持つことが出来ています。大変なことや戸惑うことも多い仕事ですが、それ以上にやりがいと誇りを感じながら働いています。

(13年目 生活支援員)

* * *

この仕事をしていて日々楽しみを感じることは、ご利用者の日々の生活に関わることで、様々な場面を共有できる場所です。ご利用者一人ひとりと向き合うことで、そのご利用者への理解が深まっています。特に今夢中になっていることを知ること、コミュニケーションの幅が広がります。食べ物が好き、テレビドラマが好き、スポーツが好き、色々な方がいらっしやいますが、時に

私が知らないことで話題を共有できない事があります。そんな時は、今日話した内容を思い出し、調べることで自分の発見に繋がったり、話題に出た食べ物を食べることで、次のコミュニケーションに活かす事ができ、共有したり、共感出来たり、人と関わる仕事だからこそ感じられる楽しみだと思えます。

今後色々なことに目を向け、ご利用者と色々な発見を共有していきたいです。

(3年目 生活支援員)



聖ヨハネ 子どもセンター

私は、第2めばえ教室で臨床心理士として勤務しています。第2めばえ教室では就学前児童を対象に、発達についての相談や療育を行っています。午前中の親子教室では、2歳児とご家族が通われていますが、その中には、1歳半健診で「ことばが少ない」「落ち着きがない」などの指摘を受けて、初めて発達について相談をされるご家族も多くおられます。それまで「なんとなく育てにくい」「ことばがゆっくりだけど個性かと思っていた」など、お子さまの育ちについて心配はされていても、発達支援が必要と指摘をされ、シヨックを受けている保護者の方は少なくありません。私は臨床心理士として、お子さまの発達の特徴をとらえ療育を行うことや、ご家族からのお話をうかがい相談に応じる役割を担っています。

発達に課題をお持ちのお子さまの中には、人とのコミュニケーションをとることが苦手なお子さまがおられます。人と一緒に遊ぶより、玩具などに関心を向けることが多い方もいて、私が挨拶をしても視線を向けることなく、玩具に向かう姿も見られます。私は、そのお子さまと一緒に同じ姿勢で玩具を見たり、同じテンポで一緒に遊具の上を歩いたりしながら、少しでも人に意識や関心を持つことができるように、試行錯誤しながら関わりを続けています。お子さまの好きなこと、興味のあることに一緒に取り組むことで、ふと視線を私に向けたりと、時には笑顔が見られることがあり、お子さまの変化をご家族と共有しながら、私自身も嬉しく感じています。

半年もしくは1年間の通室の中、目に見える変化が少ないお子さまもおられますが、質的な変化は起こっており、成長のめばえや小さな変化を見つけることができます。変化や成長が少しでもたくさん見られることができるように、スタッフ同士で相談しながら日々のかかわりに工夫をしています。

お子さまの成長をご家族と一緒に感じることができるよう、お子さまが成長する姿を見てご家族が笑顔になっていただけるように、今後もお子さまやご家族に寄り添っていきたく考えています。

(9年目 臨床心理士)



理事長 野知卓司

つい先日10月10日夕刻に、毎年恒例の法人特別セミナーを開催いたしました。

今年は社会福祉法人博愛社の長野泰信理事長に講師をお願いし、博愛社の歴史と現状、それを通しての将来展望について、「歴史を知り、未来につながる」のテーマでお話しいただきました。博愛社は武田薬品の工場に隣接しており、先の戦争で幸運にも全く爆撃に遭わず、創設以来の厩大(ほうだい)な資料が保存されております。2001年に博愛社歴史研究会が発足し、2007年からは文部科学省の援助を受けた事業として継続されています。この研究会を主宰されている室田保夫先生の関西学院大学退官記念会が9月16日に催され、先生の記念講演をお聴きし、研究会のメンバーの皆さんにお目にかかったところで、大変興味深く拝聴いたしました。

将来展望としてお話しされた

中に2014年に展開された博愛社ランド・デザイン・プロジェクトが紹介されました。コンセプトとして①理念・原点に向き合う②隣人と共に歩む③こは私の家みんなと住もう④博愛社内をつながり⑤地域とのつながり⑥地域ニーズへの挑戦⑦敷地を活かす、の七つを掲げ、それぞれの課題が列挙されています。施設整備の課題のうち「サテライト特養の建設(清心館の建替)」は実現され、今年6月に竣工されました。

又「幼稚園・保育園の園舎老朽化に伴う建替」については両園を合体した認定こども園が構想され、具体的な計画が進行しているとのことで感銘を受けました。

当法人でも2013年から中期ビジョン活動に取り組んできました。今年は第1期の5年間の最終年となり、この5年間の総括し検証して次の第2期への展望を描こうとしております。その要が総合整備計画の基本構想策定で、4月から毎月委員会を行い、施設ごとに現状分析と将来構想を発表して議論を重ね

てきました。10月はそれをまとめる作業を行うことにしており、博愛社のランド・デザイン・プロジェクトは参考にしたいと思えます。

法人特別セミナーですが、発端は2007年2月に行つた「聖ヨハネ学園の原点を考える」シンポジウムです。前年の4月頃から準備に入つて講師を固め、7月には全職員の皆さんから「キリスト教精神について」「職場の状況について」「働き甲斐について」など16項目のアンケートを取つて、まとめ、講師の方たちへ予備資料としてお送りしました。

当日は約130人の参加者で盛会となり、その後毎年の恒例行事となつて今回が12回目となります。

このシンポジウムの資料を



社会福祉法人博愛社

読み返してみますと、当時の施設長河口知規氏の発題講演、理事井上美津氏の基調講演「聖ヨハネ学園のルーツを語る」そして4人のシンポジスト、元理事長で当時後援会長の竹内信義氏、当時後援会副会長で障がい者活動で著名な牧口一二氏、当時博愛社理事長で評議員の佐野信三氏、聖ヨハネ学園施設長を定年退職され理事の黒崎光太郎氏がそれぞれの立場から貴重な提言を含むお話をされています。それに続く前事務局長の石田美郎氏の司会による質疑応答での聴衆との活発な意見交換が思い出されます。

今振り返りますとこのシンポジウムでの将来への問題意識がその後の活動、即ち新しい理念の制定、施設再生プロジェクト、収支向上プロジェクト、中期ビジョンプロジェクトと続いてきたのだと感慨深いものがあります。まだまだこの法人の未来を描き切るには道半ばであり、これからも立ち止まることなく職員・関係者が一丸となつて進んでいきたいと願っています。

◎チャプレン室からのたより

チャプレンの働き

チャプレン 司祭 ペテロ 竹林 徑一

聖ヨハネ学園における私の「肩書、地位、役割」は、チャプレンです。毎年3月末の新規採用職員研修では、毎回その説明から入るのですが、キリスト教独特の呼び方、名前、仕事なので、なかなか理解が難しいようです。ちなみに、司祭というのは聖職者の「身分」を表わす職位で、聖公会の職制では他に執事・主教があり、三聖職位と云います。

英語の辞書を見ると、chaplain(チャプレン)とは「学校、病院、社会事業などの施設や組織付きの聖職者・司祭」とあります。教会以外の種々の施設(上記の他に、船舶、公使・領事館、刑務所、軍隊、宮廷等)における宗教活動のために任命される聖職を指します。教会に遣わされる聖職、司祭が、いわゆる牧師です。キリスト教の伝道・宣教・教

えという宗教指導、礼拝や各種儀式・行事に当るほか、相談・カウンセリング、理事や職員への支援、建物の聖別、運動クラブのユニフォームや新車の祝福などさまざまです。以前、ベトナム戦争に従軍チャプレンとして赴き、兵隊と戦場・生死を共にしたという米国聖公会司祭の話聞いたことがあります。また、長年刑務所の教誨師(きょうかいし)として奉仕した仲間もいました。

わたしたち聖公会の活動の特徴は、定められた「祈祷書」を基本に、種々の宗教活動を行なっているということ。朝から就寝まで、誕生感謝から葬送・逝去記念まで、人間としての生活・活動全般に網羅しており、「聖書」と共に、人の暮らし・生きざまと神の世界を結び付ける道具、テキストとなっていますが、あまり知られていま

せん。興味のある方は、学園法人本部が、チャプレンまでお問い合わせください。

さて、聖ヨハネ学園厨房で長く調理師をされていた榎崎真規(ならさきまさき)さんが、6月30日に突然亡くなられ、7月の末に児童養護の子ども達や職員と一緒に「お別れの会」を捧げました。チャプレンとして司式・感話をしました。クリスマス祝会や卒業生を送る会、保育園のチャプレンタイムなど、うれしい楽しい集いだけでなく、ミス・プール老人ホームでのお葬式なども私の学園での役目です。

最近私が、チャプレンの仕事として大事だと思っているのは、社会福祉施設の持つ条件や制度の枠を超えたところでの、精神的・霊的な働きです。プール学院など学校でチャプレンをした経験からも痛感させられているのですが、児童養護や保育園などで在園中に福祉・育児の専門家による(制度の中での)サービスを提供するだけではなく、卒業・卒園後、あるいは退職後の成長や人生経験に応じた個人的

な(制度外の)ケア、関わりが強く求められている時代・社会になってきているように感じています。

キリスト教諸施設の働きが、世の諸施設と一味違うものがあるとすれば、人間の思いや計画を超えたところで、神さまが望んでおられることは何かを常に考えながら、サービスに励むときに見えてくるのかもしれない。

- 社会福祉法人 聖ヨハネ学園 (法人本部)
〒569-1032 高槻市宮之川原2丁目9番1号 TEL&FAX 072-687-0548
- 聖ヨハネ学園 (児童養護施設)
〒569-1032 高槻市宮之川原2丁目9番1号 ☎ 072-687-0541 FAX 072-689-3623
 - 下田部保育園 (保育所)
〒569-0046 高槻市登町1番1号 ☎ 072-671-9960 FAX 072-673-8039
 - ミス・プール記念ホーム (特別養護老人ホーム/デイサービスセンター/ケアプランセンター/ヘルパーステーション/地域包括支援センター/エンゼル園)
〒569-1031 高槻市松が丘1丁目21番9号 ☎ 072-688-5138 FAX 072-688-4478
 - ゆう・あいセンター (高槻市事業受託/地域活動支援事業Ⅱ型・特定指定相談支援事業)
〒569-0075 高槻市城内町1番11号 ☎ 072-672-0267 FAX 072-661-3508
 - うの花療育園 (高槻市指定管理者事業・児童発達支援センター)
〒569-1131 高槻市郡家本町5番5号 ☎ 072-685-3803 FAX 072-685-3805
 - 地域生活支援センター光 (障がい者支援施設/放課後等デイサービス)
〒569-1032 高槻市宮之川原2丁目9番1号 ☎ 072-680-1110 FAX 072-691-8300
 - 聖ヨハネ子どもセンター (高槻市乳幼児療育事業受託/児童発達支援/放課後等デイサービス事業/障がい児相談支援事業)
〒569-1032 高槻市宮之川原2丁目9番1号 ☎ 072-687-7720 FAX 072-687-7722